



2023 年度以降の教育学部一般選抜改革について

教育学部では、深い専門性を評価してきたこれまでの 3 教科型の一般選抜方式に加え、大学入学共通テストで 5 教科または 3 教科の知識・技能を評価した上で、思考力・判断力・表現力を評価する論述問題を含む個別試験を課す新しい一般選抜方式を 2023 年度入試（2023 年 4 月入学）より導入します。

3 教科型の選抜を経て入学した教科に関する深い学力を有した学生と、幅広い知識を有し思考力や表現力に長けた学生が共に学ぶことにより、異質な他者との関係性のなかで互いをより高めあい、新たな価値観を創出できる卒業生の輩出を目指していきます。

記

一般選抜変更の概要について

1. 現行の 2 方式（文科系（A 方式）、理科系（B 方式））に加え、「共通テスト＋一般（C 方式）」および「共通テスト＋一般（D 方式）」を新設します。
2. 学部として新設する C 方式は、大学入学共通テスト 5 教科 7～8 科目と、学科ごと（理学科は専修ごと）の個別試験を組み合わせたものとします。また、大学入学共通テストの得点による第一段階選抜を行い、その合格者のみが個別試験を受験できるものとします。
3. 一部専修で新設する D 方式は、大学入学共通テスト 3 教科 5 科目と個別試験を組み合わせたものとします。
4. 教育学科初等教育学専攻において B 方式の募集を停止し、A 方式および C 方式で募集します。
5. 理学科生物学専修において B 方式の募集を停止し、C 方式および D 方式で募集します。
6. C 方式は学部計で 120 名募集し、D 方式は理学科生物学専修で 10 名募集します。

なお、A～D 方式は併願することができません。いずれも 2 月 19 日に試験を実施します。また、C 方式ならびに D 方式の新設にあわせ、既存の A 方式、B 方式を以下の通り変更します。

- ドイツ語およびフランス語は独自試験を廃止し、大学入学共通テストの得点を利用します。
- 政治・経済 / 生物基礎、生物 / 地学基礎、地学を廃止します。
- 教育学科教育学専攻、社会科では、A 方式の募集人数をそれぞれ 100 名から 95 名、145 名から 140 名に変更します。
- 理学科では、B 方式での募集人数を 50 名から地球科学専修のみで 20 名募集とします。地球科学専修の地学選択者募集枠（若干名）は廃止します。
- 学部計で 560 名の募集人数を 520 名に変更します。

試験内容や募集人員の詳細は、次項を確認してください。また、教育学部一般選抜新方式に関する学部長からのメッセージ、Q&A は別紙を参照ください。

新設する C 方式の個別試験については、理系学科（理学科、数学科）で 2021 年 8 月末まで、その他の学科（教育学科、国語国文学科、英語英文学科、社会科、複合文化学科）で 2022 年 3 月末までにサンプル問題を教育学部ウェブサイト上で公表する予定です。

一般選抜変更の内容について

1 各方式の募集人員

各学科専攻専修志願者が選択できる方式、募集人員をまとめると以下の通りとなります。

	教育学科			国語国文学科	英語英文学科	社会科		理学科		数学科	複合文化学科	学部計	
	教育学専攻					初等教育学専攻	地理歴史専修	公共市民学専修	生物学専修				地球科学専修
	教育学専修	生涯教育学専修	教育心理学専修										
A方式	95			20	80	80	140		-		-	40	520
B方式	-			-	-	-	-	20	45				
C方式	20			5	15	15	25	15	5	10	10	120	
D方式	-			-	-	-	-	10	-	-	-	10	
計	115			25	95	95	165	50		55	50	650	
(現行)	(100)			(20)	(80)	(80)	(145)	(50)		(45)	(40)	(560)	

2 A方式、B方式[現行の方式・一部変更あり]

2.1 試験内容

方式	教科(配点)	科目等
A方式	外国語(50点)	次のうちから1科目を選択。ただし、英語英文学科志願者は必ず①を選択。また、②～③は共通テストの得点を利用する。 ① 英語 ② ドイツ語 ③ フランス語
	地理歴史(50点)	① 世界史B ② 日本史B ③ 地理B から1科目を選択
	国語(50点)	国語総合、現代文B、古典B
B方式	外国語(50点)	次のうちから1科目を選択。ただし、②～③は共通テストの得点を利用する。 ① 英語 ② ドイツ語 ③ フランス語
	理科(50点)	① 物理基礎、物理 ② 化学基礎、化学 から1科目を選択
	数学(50点)	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B(「確率分布と統計的な推測」を除く)

2.2 変更点

- ドイツ語およびフランス語は独自試験を廃止し、大学入学共通テストの得点を利用します。
- 政治・経済 / 生物基礎、生物 / 地学基礎、地学を廃止します。
- 教育学科教育学専攻、社会科では、A方式の募集人数をそれぞれ100名から95名、145名から140名に変更します。また、教育学科初等教育学専攻はB方式の募集を停止します。
- 理学科では、B方式での募集人数を50名から地球科学専修のみで20名募集とします。生物学専修はB方式の募集を停止し、地球科学専修の地学選択者募集枠(若干名)は廃止します。
- 学部計で560名の募集人数を520名に変更します。

3 C方式 **【新設】**

試験内容

	教科・科目等
大学入学 共通テスト	<p>5教科 7～8科目。900点満点を90点換算する。</p> <p>外国語：「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」から1科目。 ただし、英語英文学科志願者は必ず英語を選択。</p> <p>国語：「国語」</p> <p>数学：「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」</p> <p>地歴・公民および理科の選択は以下の通りとする。</p> <p>地歴公民：「世界史B」「日本史B」「地理B」「倫理、政治・経済」</p> <p>理科：①「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」 ②「物理」「化学」「生物」「地学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育学科、国語国文学科、 英語英文学科、社会科 ●理学科、数学科 ●複合文化学科 <p>地歴・公民から2科目に加え理科から1科目。 なお、理科は①を選択した場合、2科目で1科目として扱う。</p> <p>地歴・公民から1科目に加え理科から2科目。 なお、理科は②から選択すること。</p> <p>地歴・公民から2科目に加え理科から1科目、または 地歴・公民から1科目に加え理科から2科目。 なお、理科は①を選択した場合、2科目で1科目として扱う。</p>
個別試験	学科、あるいは専修ごとの問題（150点）

注) 志願者が募集人員の約8.0倍に達した場合は、大学入学共通テストの成績による第一段階選抜を行い、第一段階選抜合格者に対して個別試験を行います。第一段階選抜合格者は、個別試験の10日程度前に発表します。なお、第一段階選抜不合格者には、入学検定料35,000円のうち、15,000円の返金申請を受け付けます。返金は3月下旬～4月下旬を予定しています。

【個別試験内容】

学科	試験内容	試験時間
教育学科	総合問題 資料を読み解いたうえで、読解力・思考力・文章力並びに教育への関心を問う問題とする。	90分
国語国文学科	国語（現代文・古文・漢文） 読解力・思考力・文章力を問う問題とする。	90分
英語英文学科	英語 資料を読解し、日英両言語で解答する問題とする。なお、文科系（A方式）「英語」と一部共通の問題とする。	90分
社会科	総合問題 社会への関心を問い、日本語または英語の資料や図表を読み解いたうえで、解答する問題とする。	90分
理学科	生物学専修：理科 出題は物理、化学、生物、地学からテーマ設定を行うが、特定の科目の細かい知識を持たずに解答が導き出せる問題とする。なお、問題によっては理系数学の基礎的な概念を把握していることが必要な場合もある。	90分
	地球科学専修：理科 出題は物理、化学、生物、地学からテーマ設定を行い、科目にとらわれない自然科学的思考力を問う問題とする。	
数学科	数学 理科系（B方式）「数学」と同一問題とする。	120分
複合文化学科	総合問題 複数の資料を読んだうえで、自分の考えを論理的に述べる論述問題とする。	120分

4 D方式 **[新設]**

試験内容

	教科・科目等
大学入学 共通テスト	3教科5科目。600点満点を90点換算する。 外国語：「英語」「ドイツ語」「フランス語」から1科目。 数学：「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」 理科：「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目。
個別試験	C方式の生物学専修個別試験と同一問題とする。(150点)

5 注意事項

- 学科・専攻・専修間、方式間での併願はできません。いずれも出願時に選択します。また、いずれも2月19日に試験を実施します。
- A方式、B方式において、現行と同様に、国語国文学科受験者の国語、英語英文学科受験者の英語、複合文化学科受験者の外国語の得点は、調整後の得点を1.5倍し、数学科受験者の数学は調整後の得点を2倍します。
- A方式、B方式において、現行と同様に、すべての教科で合格基準点を設け、基準点に満たない教科がある場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とします。また、国語国文学科・英語英文学科・数学科は、上記に加え次のような特定教科の合格基準点を設けます。
 - 国語国文学科「国語」：国語国文学科全受験者の平均点
 - 英語英文学科「外国語（英語）」：英語英文学科全受験者の平均点
 - 数学科「数学」：数学科全受験者の平均点
- D方式では大学入学共通テストの成績による二段階選抜は行いません。

以上

【本件に関する問い合わせ先】

早稲田大学教育学部事務所入試係

E-Mail:edu-admission@list.waseda.jp



School of Education
早稲田大学教育学部

2021年7月7日

受験生ならびに関係者の皆様へ

早稲田大学 教育学部
学部長 若林 幹夫

2023年度以降の入学試験における教育学部一般選抜改革について

早稲田大学教育学部では、2023年度入学試験(2023年4月入学)より、一般選抜の方式を刷新し、これまでの方式に加え、新たに大学入学共通テストと個別試験からなる方式を導入します。

教育学部では、これまで学部独自試験3教科からなる一般選抜を実施してきました。この方式により、特定の専門分野について深く理解している受験生を選抜し、その後のカリキュラムによる学部教育の効果も併せ、教育分野、経済・産業界、公務員等の公共分野、報道・ジャーナリズム、高等教育機関等における先端的学問分野、文学界、文化・芸能界などの様々な分野で活躍する卒業生を社会に送り出してきました。

そのうえで今後は、価値観が多様化するに伴って種々の課題が顕在化している現代社会において、複雑化する課題の解決に貢献する才知ある人物を送り出すためには、これまでの3教科型入試で評価してきた深い専門性に加え、柔軟な思考力、豊かな教養や論理的思考能力と言語運用能力を評価する入試体制も必要になると考えます。

こうした考えのもと、教育学部ではこれまでの3教科型の一般選抜方式に加え上記のように、大学入学共通テストで知識・技能を評価した上で、思考力・判断力・表現力を評価する論述問題を含む個別試験を課す新しい一般選抜方式を2023年度より導入することにいたしました。

3教科型の選抜を経て入学した教科に関する深い学力を有した学生と、幅広い知識を有し思考力や表現力に長けた学生が共に学ぶことにより、異質な他者との関係のなかで互いをより高めあい、新たな価値観を創出できる卒業生の輩出を目指していきます。

以上



2023年度以降の教育学部一般選抜改革に関するQ&A

早稲田大学教育学部では、2023年度入試(2023年4月入学)より、これまでの3教科型の一般選抜方式(A方式、B方式)に加え、大学入学共通テストで知識・技能を評価した上で、思考力・判断力・表現力を評価する論述問題を含む個別試験を課す新しい一般選抜方式(C方式、D方式)を導入します。

この一般選抜改革に関する受験生や関係者の方からの疑問点について、以下の通りQ&A形式で回答します。

なぜ今回の入試改革に至ったのですか？なぜ現行方式も維持するのですか？

新設するC方式は、大学入学共通テスト5教科に思考力・判断力・表現力の評価を含む個別試験という現行方式とは全く異なる入試形式となります。

教育学部では、アドミッション・ポリシーにて優秀な教育者を輩出すること、広く実社会の各分野で活躍する有能な人間を育成することを掲げています。現代社会の複雑化する種々の課題解決に貢献する才知ある人物を育成するためには、これまでの3教科型入試で評価してきた深い専門性に加え、柔軟な思考力、豊かな教養や論理的思考能力と言語運用能力が必要であると考えています。こうした考えのもと、これらを重視して評価する入試として新方式を導入します。

なお、これまでの学部独自試験3教科からなる一般選抜方式は、深い専門性を評価し、入学後の学部教育の効果も併せ、様々な分野を支え活躍する卒業生を送り出していることから、十分な成果をあげています。したがって、現行方式も引き続き募集人員をほぼ維持したうえで継続します。

3教科型の選抜を経て入学した教科に関する深い学力を有した学生と、幅広い知識を有し思考力や表現力に長けた学生が共に学ぶことにより、異質な他者との関係性のなかで互いをより高めあい、新たな価値観を創出できる卒業生の輩出を目指します。

なぜ理学科生物学専修は理科系(B方式)の募集を停止するのですか？

生物学専修のカリキュラムでは、生物学専修ならではの自然科学的な思考力・考察力が必須となりますので、そのような力を「専修個別試験」で問い、これに共通テストを組み合わせる方式に移行することにしました。なお、多様な学生を受け入れるため、共通テストの教科については、5教科(C方式)または3教科(D方式)を選択することができるようにしています。

※2021年7月16日修正 3行目：共通テストの教科数について、5科目→5教科、3科目→3教科と修正。

現行方式で廃止科目の利用を検討していましたが、どうすればよいのでしょうか？

現行方式において、「政治・経済」、「生物基礎、生物」、「地学基礎、地学」を廃止しますが、これらの科目の専門性は、新方式(C方式、D方式)における共通テストや、社会科、理学科生物学専修、地球科学専修の個別試験に活かすことができます。是非、新方式での出願をご検討ください。

C方式、D方式の個別試験への対策はどのようにすればよいですか？

新方式（C方式、D方式）の個別試験は、多彩な学科専攻専修を擁する本学部の特長を活かし、各学科（理学科は各専修）の専門性が反映された内容となります。教育学、心理学、文学、地理学、歴史学、公共市民学、理学等の専門分野への興味・関心を深めていくことが、個別試験への対策ともなります。

なお、理系学科（理学科、数学科）で2021年8月末まで、その他の学科（教育学科、国語国文学科、英語英文学科、社会科、複合文化学科）で2022年3月末までにサンプル問題を教育学部ウェブサイト上で公表する予定です。

どのような人がA方式・B方式に向いていて、どのような人がC方式に向いていますか？

現行のA方式、B方式は、外国語/地理歴史/国語、または外国語/理科/数学に関する専門性が重視されます。これら教科について深い知識を持つ受験生は、是非A方式、B方式での受験をご検討ください。

対してC方式は、5教科の幅広い知識と、教育学部各学科専攻専修への興味・関心、さらに思考力・判断力・表現力を重視しています。したがって、A方式やB方式で求める能力とは異なる特長を持った受験生に受験を検討いただくことを期待しています。

一般選抜改革に合わせたカリキュラムの変更はありますか？

本学部では、カリキュラム・ポリシーにて“深い専門性、幅広い知識、豊かな教養、優れたコミュニケーション能力を身に付けた人間の育成”を掲げており、この理念を実現するために常に教育体制の改善に取り組んでいます。

直近では、2019年度に多様な学科専攻専修で構成される教育学部の豊富なリソースを集中的・横断的に活かし、深く幅広い教養を身につけることを目的とした副専攻制度「総合科学プログラム」を開始しました。また、2018年度には社会科社会科学専修が社会科公共市民学専修に名称変更し、大幅なカリキュラムの改定を行っています。

2023年度には英語英文学科にてカリキュラム変更が行われる予定です。英語英文学科では、英語圏の文学・文化、言語学、応用言語学、英語教育の基礎から発展まで英語で学べるカリキュラムを提供していますが、このうちライティング力を磨く授業において、本学グローバルエデュケーションセンターと連携した少人数クラスによる授業を提供し、よりきめ細かな指導を行う体制を整えることとなっています。

以上